

蚊媒介感染症（日本脳炎、デング熱）に対する注意喚起 ～対策は、蚊に刺されないこと、蚊を発生させないことです～

1 日本脳炎

1) 概要

日本脳炎ウイルス（JEV）は、蚊（主にコガタアカイエカ）によって媒介され、豚に感染すると体内で増え多量のウイルスが血液中に出て数日間持続することから、豚は JEV の増幅動物として知られています。感染した豚は、血液中に JEV に対する抗体が産生されるので、豚の抗体陽性率を JEV の活動の指標としています。

本県では、JEV の活動状況を把握するために、感染症流行予測調査において、増幅動物である豚の HI 抗体検査を実施しています。

今回、令和元年8月5日に採血し抗体検査を実施した結果、日本脳炎注意報発令基準*のうち、HI 抗体陽性率の 50%超過は認められないものの、新鮮感染（最近感染したこと）を示す 2-ME 感受性抗体が検出されましたので、日本脳炎ウイルスに対して県民に感染の予防等、注意を呼びかけます。

なお、県内では平成 10 年に 1 例（50 代男性）、平成 23 年に 1 例（1 歳男児）の患者が報告されています。

※日本脳炎注意報発令基準

「HI 抗体陽性率が平均 50%を超え、かつ新鮮感染（最近感染したこと）を示す 2-ME 感受性抗体が検出されること」

《過去 10 年間の注意報発令状況》

平成 24 年 8 月 10 日、平成 26 年 8 月 6 日
(平成 21、22、23、25、27、28、29、30 年は発令なし)

2) 沖縄県、全国の患者発生状況（人）

| | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R01 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 沖縄県 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 全国 | 3 | 4 | 9 | 2 | 9 | 2 | 2 | 11 | 3 | 0 | 0 |

3) 日本脳炎について（感染症法による分類：4類感染症）

原因：日本脳炎ウイルス（JEV）

感染経路：JEVに感染した豚を蚊が吸血

→蚊の体内でJEVが増殖し、唾液腺にJEVが蓄積される

→JEV保有蚊が人を吸血することにより人に感染

※人から人への感染はない



（出典：国立感染症研究所ホームページ）

潜伏期間：1～2週間

症状：(1) 感染しても発症するのは100～1000人に1人程度で、大多数は無症状におわります。

(2) 発病すると突然の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害や麻痺等の神経系の障害を引き起こします。

(3) 発症した方の20～40%が亡くなってしまふといわれています。また、生存者の45～70%に精神障害などの後遺症が残るといわれています。

治療：対症療法のみ

予防：ワクチンによる予防（定期接種または任意接種）

2 デング熱

1) 概要

2019年第34週（8月25日）現在、県内において蚊媒介感染症である「デング熱」の患者が、過去最多に並ぶ5例報告されています。いずれも海外渡航先で感染し帰国後に発症した症例（輸入症例）で、県内での感染例は確認されていません。

現在、フィリピンやインドネシアなど東南アジア地域の国ではデング熱患者が例年よりも多く確認されており、渡航先では感染予防対策をとることが重要です。また、帰国後に発熱など心配な症状が出た場合は、速やかにお近くの医療機関を受診し、医師に渡航先や渡航期間などについて、くわしく伝えてください。

デング熱媒介蚊であるヒトスジシマカは、県内の人家周辺や公園など身近な場所に生息しています。感染症のまん延を未然に防止するには、平常時から地域全体で蚊の発生抑制に取り組むことも重要です。

2) 沖縄県、全国の患者発生状況 (人)

| | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R01 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 沖縄県 | 0 | 2 | 5 | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 | 2 | 0 | 5 |
| 全国 | 92 | 243 | 113 | 221 | 249 | 341 | 293 | 338 | 245 | 201 | 224 |

3) デング熱について (感染症法による分類：4類感染症)

原因：デングウイルス

感染経路：デングウイルスに感染した人を蚊が吸血

→ 蚊の体内でウイルスが増殖し、唾液腺にウイルスが蓄積される

→ ウイルス保有蚊が健康な人を吸血することにより、その人に感染

※ 人から人への感染はない

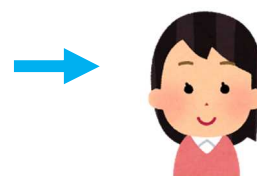


デング熱感染者



ヒトスジシマカ

(出典：国立感染症研究所ホームページ)



健康な人

潜伏期間：2～14日 (通常3～7日)

症状：(1) 感染しても発症するのは20～50%程度で、約半数は無症状におわります。

(2) 38～40℃の発熱で発症し、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹が現れます。

(3) 通常は1週間程度で回復しますが、まれに「デング出血熱」へ移行することがあり、重症化することがあります。

治療：対症療法のみ

予防：国内で利用可能なワクチンはありません

3 感染予防対策

(1) 蚊に刺されないように工夫しましょう

- ・ 長袖、長ズボンの着用
- ・ 露出している皮膚へ虫除けスプレーを使用
- ・ 蚊が屋内に侵入しないよう網戸を使用

(2) 蚊を発生させないようにしましょう

蚊の防除の基本は、幼虫 (ボウフラ) の発生源対策です。蚊が発生する水たまりをなくす環境づくりを心がけましょう。

- ・ 屋外に放置された容器や空き缶などを片づける
- ・ 水がたまる場所をなくす、または週に1回は清掃や水の交換をおこなう

(3) 日本脳炎は予防接種が有効です

① 予防接種法に基づく通常の定期予防接種スケジュール

○ 第 1 期 (3 回)

初回接種 (2 回) : 生後 6 か月以上 90 か月に至るまで (標準として 3 歳) の間に、標準的には 6~28 日の間隔をおいて 2 回

追加接種 (1 回) : 初回接種後 6 ヶ月以上あけて (標準的にはおおむね 1 年)

○ 第 2 期 (1 回) : 9 歳以上 13 歳未満 (標準として 9 歳)

② 任意接種で実施する場合

初回接種として 6~28 日の間隔をおいて 2 回、初回接種後おおむね 1 年を経過した時期に 1 回追加接種します。

(4) 十分な栄養をとり、過労を避けるなど健康管理に努めましょう

【参考】

1) 日本脳炎

○ 厚生労働省

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekka-ku-kansenshou20/japanese_encephalitis.html

○ 国立感染症研究所 (日本脳炎 Q&A)

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/jeqa.html>

2) デング熱

○ 厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000131101.html>

○ 厚生労働省検疫所 (デング熱の発生状況 - 西太平洋地域)

<https://www.forth.go.jp/topics/20190822.html>

○ 国立感染症研究所感染症疫学センター (日本の輸入デング熱症例の動向について)

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/dengue/PDF/dengue_imported201908_draft%20%20.pdf